

# 危機管理連絡会議

日 時：平成 28 年 5 月 10 日（火） 15 時から

場 所：県庁 4 階 403 会議室

## 協議事項

- デング熱、ジカ熱等蚊媒介感染症の注意喚起について
- マダニが媒介する感染症（「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」、「日本紅斑熱」）の注意喚起について
- 熱中症対策について

## 蚊媒介感染症の注意喚起について

### 1 徳島県蚊媒介感染症対策行動計画について

感染症法におけるジカウイルス感染症の指定（4類感染症）により、「蚊媒介感染症に関する特定感染予防指針」の改訂に併せ、県内における感染予防及びまん延の防止を目的として、蚊媒介感染症に係る対策行動計画を策定するもの。

### 2 計画の内容

#### (1) 対象感染症

主には、国内に多く生息・活動するヒトスジシマカが媒介して起こる  
デング熱、チクングニア熱及びジカウイルス感染症等の感染症

#### (2) 発生段階における対策

##### 【平常時】の対策

- 蚊の発生を可能な限り抑制し、行政と県民が協力して蚊媒介感染症の発生リスクを低下させる。
- 検査医療体制を整備し、患者発生を早期に探知する。

##### 【県内未発生期】及び【県内発生期】の対策

- 国内で患者が発生した段階で、県内発生を想定し、適切な医療提供体制の整備と県民への注意喚起の徹底を行う。
- 県内で患者が発生した場合には、推定感染地での蚊対策の実施及び感染の拡大と伝播を抑制する。

### 3 デング熱、ジカウイルス感染症について

- ・主にウイルスをもった蚊に刺されることで感染する。
- ・主な症状は発熱や頭痛、関節痛、発疹など。発症しても重症化するのはまれである。
- ・ジカウイルス感染症は、頭が通常より小さく知的障害を伴うこともある小頭症との関連が疑われているので、妊娠中・妊娠予定の人は、感染地域への渡航を控えるべきである。

### 4 注意すべき事項（県民の役割）

- ・長袖、長ズボンを着用する。
- ・草刈りや清掃など、できるだけ蚊を発生させないようにする。
- ・海外への渡航時等は、蚊に刺されないように注意し、帰国後、発熱などで医療機関を受診する場合は、海外への渡航歴等を伝える。
- ・蚊媒介感染症と診断された場合には、蚊に刺されないようにする、献血を控える、行政機関が実施する積極的疫学調査に協力するなど、必要な協力を行う。

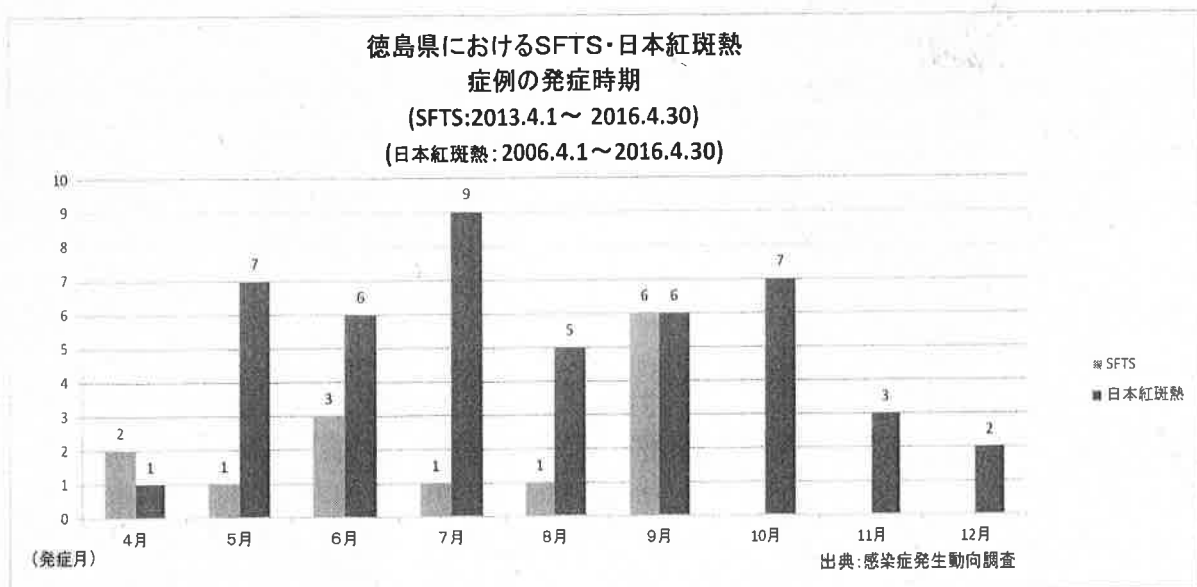
マダニが媒介する感染症（「重症熱性血小板減少性症候群（SFTS）」、「日本紅斑熱」）の注意喚起について

### 重症熱性血小板減少性症候群（SFTS）

- 感染経路：主にSFTSウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染  
血液等の患者体液との接触により人から人への感染も報告されている。
- 症 状：発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）を主徴とし、時に、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状を伴う。  
血液所見では、血小板減少、白血球減少、血清酵素（AST、ALT、LDH）の上昇が認められる。  
致死率は10～30%程度
- 潜伏期間：6～14日
- 治療、予防：現在のところ有効な薬剤やワクチンはない。  
ダニに咬まれない対策

### 日本紅斑熱

- 感染経路：野山に生息する病原リケッチアを保有したマダニがヒトを刺咬することにより感染が成立（ヒトからヒトへは感染しない）
- 症 状：マダニに刺咬後、潜伏期を経て、頭痛、発熱、悪寒戦慄をもって急激に発症  
他覚所見は、「高熱、発疹、刺し口」が3徴候
- 潜伏期間：2～10日
- 治療、予防：テトラサイクリンを第一選択薬。一日の最高体温39℃以上の症例では、併用療法を行う。  
ダニに咬まれない対策



## 1. マダニの生息場所



**マダニ**は、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。

**マダニ**は、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。



## 2. マダニから身を守る服装

**野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！**

**首**にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。



半ズボンやサンダル履きは不適當です！

ハイキングなどで山林に入る場合は、**ズボンの裾**に靴下を被せましょう。



**シャツの袖口**は軍手や手袋の中に入れてみましょう。



**シャツの裾**はズボンの中に入れてみましょう。



農作業や草刈などでは**ズボンの裾**は長靴の中に入れてみましょう。

### 3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、  
家の中に持ち込まない  
ようにしましょう。



屋外活動後は、  
シャワーや入浴で、  
ダニが付いていないか  
チェックしましょう。



ガムテープ  
を使って服に  
付いたダニを  
取り除く方法  
も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

### 4. 忌避剤の効果

海外ではマダニ対策に**忌避剤(虫よけ剤)**が使用されていますが、日本には、マダニ用に市販されている忌避剤は今のところありません。

日本では、ツツガムシ（ダニ目ツツガムシ科）を忌避する用途で、衣服に塗布して使用する忌避剤（医薬品）が複数市販されています。

このような忌避剤を使用し、マダニに対して一定の忌避効果が得られることが確認されました。



**ディート（忌避剤）**の使用でマダニ付着数は減少しますが、マダニを完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。

# マダニが媒介する新しい感染症 SFTS(重症熱性血小板減少症候群)



タカサゴキララマダニ

**早期発見、早期治療が大切！！**

## 問1: SFTSってどんな病気？

2011年に初めて特定されたSFTSウイルスに感染する事によって引き起こされる病気で、6日～2週間の潜伏期を経て、**発熱、消化器症状**(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)をひき起こします。重症化すれば、死亡することもあります。

## 問2: どのように感染するの？

**SFTSウイルスを保有しているマダニ**に刺咬されることにより感染します。マダニの中でも、病原体を保有しているマダニは極めてまれですが、発症すると重症化するので十分気をつけましょう。この病気を媒介するマダニは、家ダニなどとは違う種類で、10mmほどの野山に生息しているマダニです。

## 問3: どのように予防すればいいの？

マダニに刺咬されないことが重要です。草むらや山など、ダニが生息する場所に行く場合には、**長袖・長ズボン・長靴、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出をできるだけ少なく**することが大切です。虫除けスプレーも一定の忌避効果が得られます。ペットなどの身近な動物にも気をつけましょう。

**屋外活動後は入浴し、マダニが付着していないか注意深く全身チェック**しましょう。

## 問4: もしマダニに刺されたらどうしたらいいの？

マダニ類の多くは、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、数日間吸血します。無理に引き抜こうとすると、口器の一部が皮内に残ってしまうことがあるので、**医療機関で処置**してもらってください。刺咬された後**1～2週間は、発熱、嘔気、下痢などに注意し、症状があれば直ちに医療機関を受診**してください。

朝夕に体温を測り、裏面の体温表に記入し、熱が出たら直ぐに医療機関へ。

徳島県医学・感染症専門員 馬原 文彦先生監修

徳島県保健福祉部健康増進課感染症・疾病対策室

# ダニに刺されたら1週間くらい朝夕に熱を測りましょう

ダニに刺された		姓名				体重				kg			
月	日	第 日		第 日		第 日		第 日		第 日		第 日	
		朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕
体温													
40													
39													
38													
37													
36													
35													

## ヒトを刺咬しているマダニ



フタトゲチマダニ



タカサゴキラマダニ



吸血すると3~15ミリ位に膨れる

(写真提供: 馬原アカリ医学研究所)

熱中症に注意しましょう

2016年4月26日

熱中症に注意しましょう！

早めに、しっかり予防を！

—子ども、高齢者は特に注意！！—

☆徳島県の現在の暑さ指数及び今後の暑さ指数予報はこちら☆

4月に入り、夏を越える日も...

みなさん、熱中症に気をつけましょう！！

!!詳しくは総務省消防庁のホームページをご覧ください!!

☆【総務省消防庁】熱中症搬送状況(都道府県別)等はこちら☆

※暑さ指数とは、熱中症の発生しやすさとの関係がわかりやすい指標として、労働環境、運動時における熱中症予防の指針として活用されています。

★暑さ指数21～25度が注意の目安です。(日本体育協会熱中症予防のための運動指針より)★



従来、熱中症は、多くは高温環境下での労働や運動活動で発生していましたが、最近では日常生活においても発生が増加していると言われています。また、体温調節機能が低下している高齢者や、体温調節機能がまだ十分に発達していない小児・幼児は、成人よりも熱中症のリスクが高く、さらに注意が必要です。今夏も電力供給不足に備えた節電対策の実施が推進されておりますが、一方で行き過ぎた節電は熱中症等の健康被害を引きおこす恐れもあるため、節電対策を行う際にも、熱中症予防に充分にご注意ください。

◆熱中症とは

体の水分と塩分の不足で起こります。症状により、熱疲労(軽度)、熱痙攣(中等症)、熱射病(重症)に分類されます。

初期の症状は、筋肉にけいれんや痛みを伴う症状があらわれます。症状がすすむと気を失ったり、吐き気などの症状があらわれ、さらに重症になると意識がはっきりせず、汗が止まって体温が著しく上昇



し、最悪の場合、死亡することもあります。

## ◆熱中症になりやすい人

子ども、高齢者、肥満の人、体調が悪い人、二日酔いの人 など

## ◆熱中症の予防のために

- 1 暑い場所での長時間の作業、運動はできるだけ避けましょう。
- 2 スポーツドリンクなど、水分をこまめにとるようにしましょう。
- 3 体調が悪いときは、無理をしないようにしましょう。
- 4 外出時は、帽子などを着用し、できるだけ直射日光を避けましょう。
- 5 首元を冷やすタオルやスカーフ等、熱中症対策グッズを有効利用しましょう。

## ◆熱中症かな？と思ったら

- 1 日差しをさけて、涼しいところに移動しましょう。
- 2 からだが暑いときは、冷たいタオルなどで冷やしましょう。(うなじ、脇の下、太股の付け根など)
- 3 スポーツドリンクなど、水分をとりましょう。

以上のことができない時は、またはあまり調子がよくなる時は、**早めに医療機関を受診することをおすすめします。**

詳しくは、[熱中症環境保健マニュアル\(環境省環境安全課\)](#)をご覧ください。

また、[環境省熱中症予防情報サイト](#)に「暑さ指数※」が掲載されていますので、当サイトをご参考に、熱中症予防に充分ご注意ください。

## ☆その他の熱中症関連サイト☆

[○熱中症を防ぐために～皆さまに取り組んでいただきたいこと～【厚生労働省】](#)

[○第1回熱中症対策に関する検討会【厚生労働省】](#)

[○職場における熱中症予防について【厚生労働省】](#)

[○健康のために水を飲もう推進運動【厚生労働省】](#)

[○学校安全Web 熱中症を予防しよう【独立行政法人日本スポーツ振興センター】](#)

[○職場の熱中症対策は万全ですか？【徳島労働局】](#)

[職場の熱中症対策は万全ですか？.pdf\(3MB\)](#)

[○熱中症の予防対策を！【徳島労働局】](#)

[熱中症の予防対策を！.pdf\(2MB\)](#)



## ◆徳島県は熱中症予防声かけプロジェクトにも賛同しています◆

みんなで声を掛け合い、熱中症を予防しましょう！

## 熱中症対策 シンポジウム

### 熱中症対策シンポジウムの参加受付を開始しました

5月27・28日に開催される熱中症対策シンポジウムの参加申込を受付中です。詳細は下記のページを御覧ください。 [http://www.wbgt.env.go.jp/sympo\\_1601.php](http://www.wbgt.env.go.jp/sympo_1601.php)

[トピックス一覧](#)

#### お知らせ

#### メンテナンス情報

2016.04.28

暑さ指数(WBGT)予測値等電子情報提供サービスの試験用データの提供について

2016.04.15

現在のメンテナンス情報はありません。


[メンテナンス情報一覧](#)

#### ◆アクセスの多いコンテンツ

今日  
9日 14時

明日  
10日 12時

明後日  
11日 12時



地図をクリックすると、各地方へ移動します

	ほほ安全	注意	警戒	厳重警戒	危険				
実測値で	札幌 13.0	仙台 17.2	東京 17.6	新潟 16.4	名古屋 15.7	大阪 16.4	広島 17.6	福岡 19.8	鹿児島 21.9

#### 暑さ指数(WBGT)

- 暑さ指数(WBGT)の実況と予測
- 暑さ指数(WBGT)ランキング
- 暑さ指数(WBGT)とは?
- 生活の場の暑さ指数(WBGT)
- 暑さ指数(WBGT)について学ぼう

#### 熱中症

- 熱中症について学ぶ
- シンポジウムのご案内
- 普及啓発資料のダウンロード
- 関係省庁の取組について

#### 暑さ対策

- 暑熱環境のメカニズム
- 暑熱環境を緩和させる様々な工夫や技術

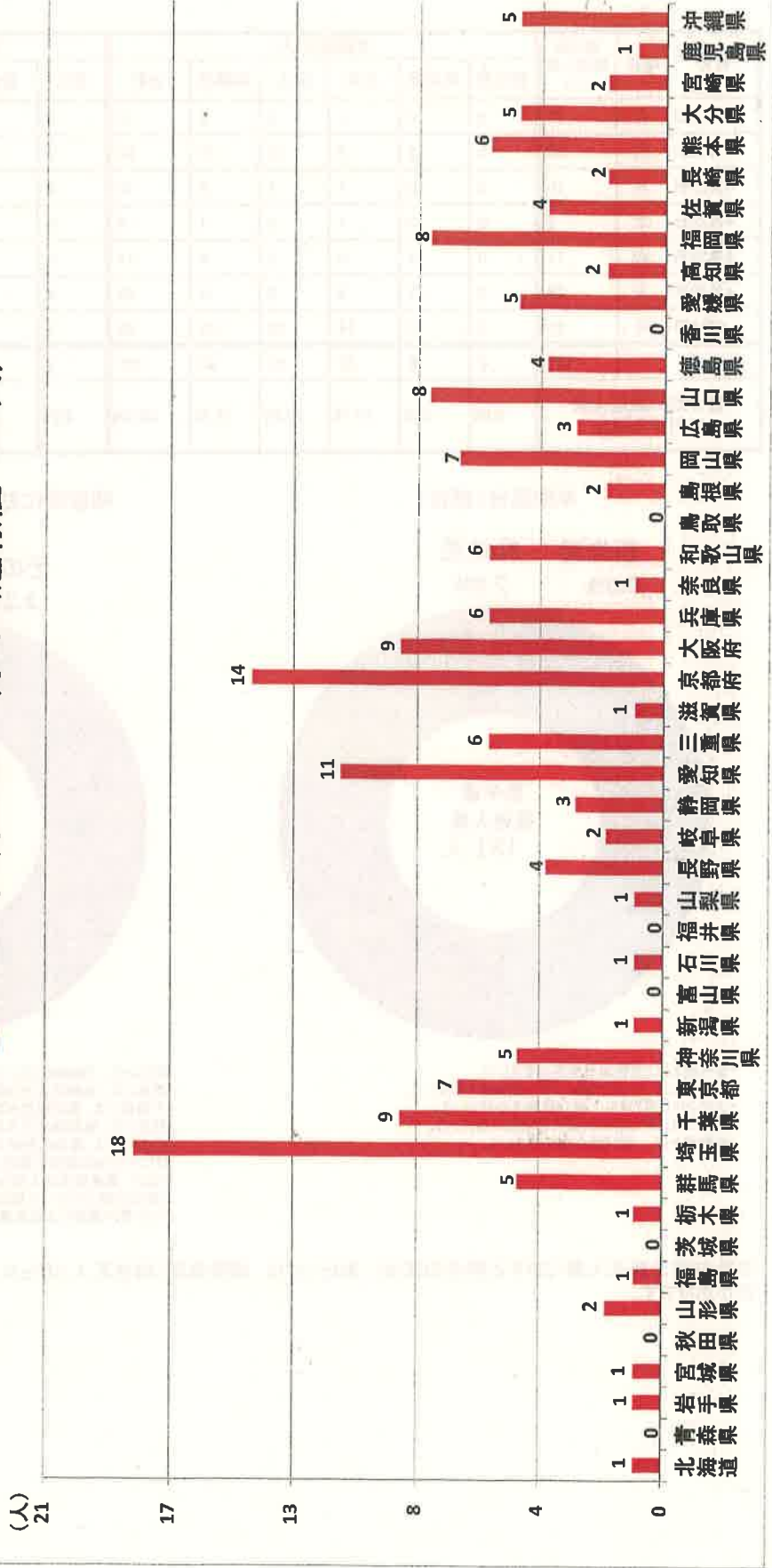
#### 参考資料

- 暑さ指数と熱中症搬送者数
- 暑さ指数の頻度集計ランキング
- 熱中症リスクカレンダー
- 関連リンク

[サイトマップ](#)   [ヘルプ](#)   [よくある質問](#)   [お問い合わせ](#)

# 平成28年 都道府県別熱中症による救急搬送人員数

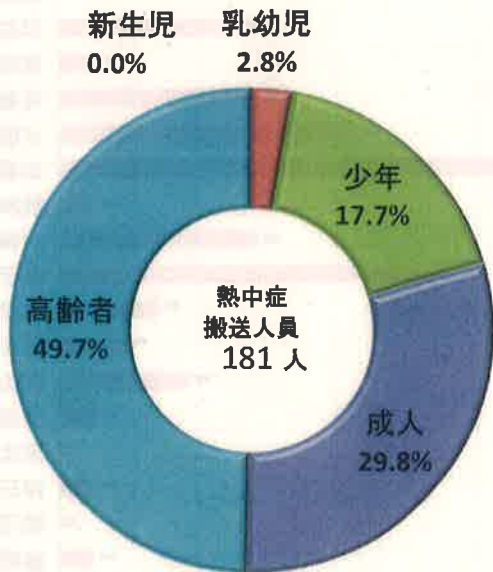
■ 平成28年4月25日～5月1日(速報値 181人)



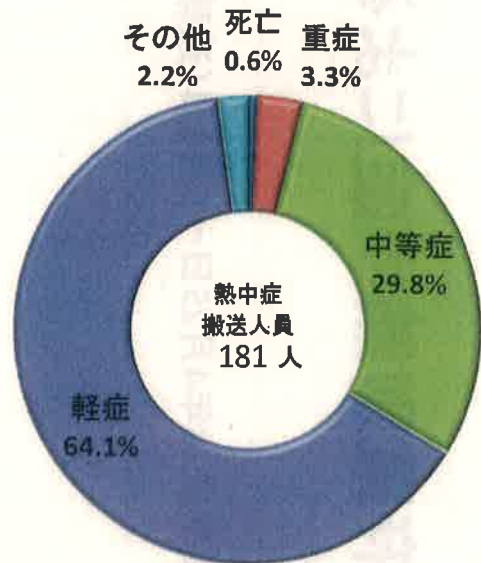
平成28年4月25日～5月1日全国の熱中症による救急搬送状況(日別)  
(速報値)

日付	曜日	熱中症搬送人員(人)	年齢区分(人)					合計	初診時における傷病程度(人)					合計
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者		死亡	重症	中等症	軽症	その他	
4月25日	月	15	0	0	1	6	8	15	0	1	3	11	0	15
4月26日	火	50	0	2	6	13	29	50	0	1	17	30	2	50
4月27日	水	10	0	0	1	4	5	10	0	1	4	5	0	10
4月28日	木	5	0	0	1	3	1	5	0	0	2	3	0	5
4月29日	金	11	0	0	0	2	9	11	0	2	5	4	0	11
4月30日	土	29	0	1	9	3	16	29	0	1	7	21	0	29
5月1日	日	61	0	2	14	23	22	61	1	0	16	42	2	61
計		181	0	5	32	54	90	181	1	6	54	116	4	181
熱中症の搬送人員に対する割合			0.0%	2.8%	17.7%	29.8%	49.7%	100.0%	0.6%	3.3%	29.8%	64.1%	2.2%	100.0%

年齢区分(割合)



初診時における傷病程度(割合)



- ・新生児とは、生後28日未満の者をいう。
- ・乳幼児とは、生後28日以上満7歳未満の者をいう。
- ・少年とは、満7歳以上満18歳未満の者をいう。
- ・成人とは、満18歳以上満65歳未満の者をいう。
- ・高齢者とは、満65歳以上の者をいう。

- ・死亡とは、初診時において死亡が確認されたものをいう。
  - ・重症とは、傷病程度が3週間の入院加療を必要とするもの以上をいう。
  - ・中等症とは、傷病程度が重症または軽症以外のものをいう。
  - ・軽症とは、傷病程度が入院加療を必要としないものをいう。
  - ・その他とは、医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、並びにその他の場所に搬送したものをいう。
- ※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、入院の必要がなかった軽症者の中には、早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

都道府県別熱中症による救急搬送状況

平成28年4月25日～5月1日(速報値)

都道府県	平成28年4月25日～5月1日(速報値)											
	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1 北海道	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1
2 青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 岩手県	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
4 宮城県	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1
5 秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 山形県	0	0	0	0	2	2	0	1	0	1	0	2
7 福島県	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1
8 茨城県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 栃木県	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1
10 群馬県	0	0	1	0	4	5	0	0	2	2	1	5
11 埼玉県	0	1	5	5	7	18	0	1	3	14	0	18
12 千葉県	0	0	2	1	6	9	0	0	2	7	0	9
13 東京都	0	0	0	4	3	7	0	1	4	2	0	7
14 神奈川県	0	0	1	3	1	5	0	1	3	1	0	5
15 新潟県	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1
16 富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17 石川県	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
18 福井県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19 山梨県	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1
20 長野県	0	0	0	1	3	4	0	1	2	1	0	4
21 岐阜県	0	0	1	0	1	2	0	0	2	0	0	2
22 静岡県	0	0	2	0	1	3	0	0	1	2	0	3
23 愛知県	0	2	1	5	3	11	0	0	2	9	0	11
24 三重県	0	0	0	1	5	6	0	0	1	5	0	6
25 滋賀県	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1
26 京都府	0	0	0	6	8	14	0	0	5	9	0	14
27 大阪府	0	0	3	2	4	9	0	0	0	9	0	9
28 兵庫県	0	0	1	2	3	6	0	0	1	5	0	6
29 奈良県	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1
30 和歌山県	0	1	0	1	4	6	0	0	1	5	0	6
31 鳥取県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32 島根県	0	0	1	0	1	2	1	0	0	1	0	2
33 岡山県	0	0	0	3	4	7	0	0	2	5	0	7
34 広島県	0	0	0	0	3	3	0	0	1	2	0	3
35 山口県	0	0	2	2	4	8	0	0	4	4	0	8
36 徳島県	0	0	0	2	2	4	0	0	3	0	1	4
37 香川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38 愛媛県	0	0	0	1	4	5	0	0	1	4	0	5
39 高知県	0	0	0	1	1	2	0	1	1	0	0	2
40 福岡県	0	0	3	2	3	8	0	0	4	4	0	8
41 佐賀県	0	0	1	0	3	4	0	0	0	2	2	4
42 長崎県	0	0	1	0	1	2	0	0	1	1	0	2
43 熊本県	0	0	1	5	0	6	0	0	1	5	0	6
44 大分県	0	0	1	1	3	5	0	0	2	3	0	5
45 宮崎県	0	0	0	1	1	2	0	0	1	1	0	2
46 鹿児島県	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1
47 沖縄県	0	1	1	2	1	5	0	0	1	4	0	5
合計【人】	0	5	32	54	90	181	1	6	54	116	4	181
割合	0.0%	2.8%	17.7%	29.8%	49.7%	100.0%	0.6%	3.3%	29.8%	64.1%	2.2%	100.0%

\* 救急搬送状況は、最新のデータを使用していますが、あくまでも速報値です。後日修正されることもありますのでご了承ください。

\* 速報値とは、最新1週間のデータのことです。

# 熱中症 ～思い当たることはありませんか？～

熱中症の予防には、水分補給と暑さを避けることが大切です

## こまめに水分を取っていますか？

- ✕ のどの渇きを感じない
- ✕ 夜中にトイレに行くのが面倒だ

高齢者は、加齢によりのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。このため、のどの渇きを感じなくてもこまめに水分補給をする必要があります。

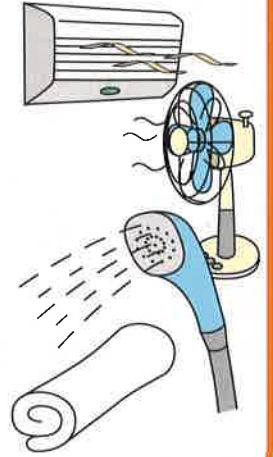
また、体に必要な水分の補給を我慢することは、特に危険です。



## エアコンを上手に使っていますか？

- ✕ エアコンは体が冷えるから嫌だ
- ✕ エアコン等が使えない

エアコンや扇風機は、温度設定に気を付けたり、体に直接あたらないよう風向きを調整するなど工夫をすると、体が冷えすぎず、快適に使うことができます。これらが使えない場合は、シャワーや冷たいタオルでも、体を冷やす効果があります。



新生児・乳幼児  
(0～6歳)  
1%

少年  
(7～17歳)  
11%

高齢者  
(65歳以上)  
46%

成人  
(18～64歳)  
42%

熱中症患者の年齢別割合  
「消防庁/熱中症による救急搬送者の状況 2010年」  
より作成

## 熱中症患者のおよそ半数は高齢者(65歳以上)です

## 暑さに強いから大丈夫？

- ✕ 暑さをあまり感じない
- ✕ 汗をあまりかかない

高齢者は、暑さに対する感覚が鈍くなり、発汗など体から熱を逃がす機能も低下します。暑い日は無理をしない、室内でも温度計を置き、部屋の温度が上がりすぎていないか確認するなど注意しましょう。



## 部屋の中なら大丈夫？

- ✕ 部屋の中では熱中症対策をしていない
- ✕ 夜は特に注意していない

熱中症は、室内や夜間でも多く発生しています。すだれやカーテンで直射日光を遮る、換気をして屋外の涼しい空気を入れる、必要に応じてエアコン等を使用するなど、部屋に熱がこもらないように、常に心掛けましょう。



# 高齢者は特に注意が必要です。

## ①体内の水分が不足しがちです

高齢者は若年者よりも体内の水分量が少ない上、体の老廃物を排出する際にたくさんの尿を必要とします。

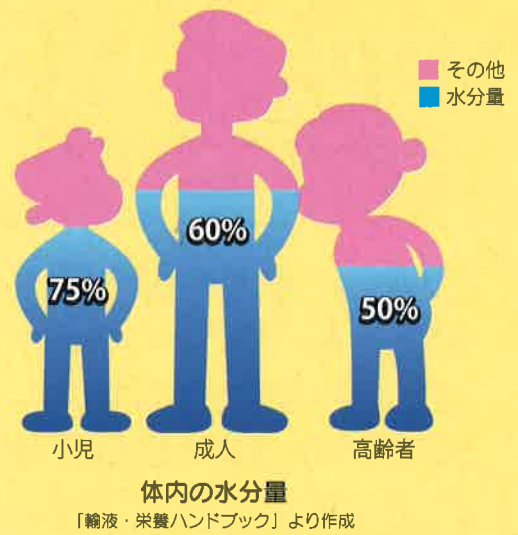
## ②暑さに対する感覚機能が低下しています

加齢により、暑さやのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。

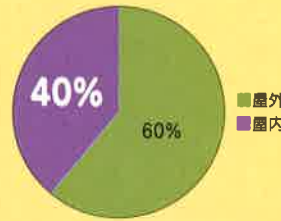
## ③暑さに対する体の調節機能が低下します

高齢者は体に熱がたまりやすく、暑い時には若年者よりも循環器系への負担が大きくなります。

※心臓や腎臓の悪い方や持病をお持ちの方は、かかりつけの医師にご相談下さい。



# 熱中症は、室内でも多く発生しています。夜も注意が必要です。



熱中症の発生場所(さいたま市、2010年)  
提供：国立環境研究所 小野雅司氏

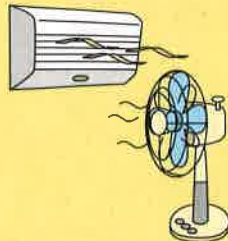
東京都		
	全患者数	夜間の患者数
小児	1500	127
成人	1096	98
高齢者	2080	188
総計	4679	413

注) 夜間は21時～6時

夜間の熱中症患者数(東京都、2010年)  
提供：国立環境研究所 小野雅司氏

# 予防法ができているかをチェックしましょう。

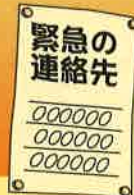
- こまめに水分補給をしている
- エアコン・扇風機を上手に使用している
- シャワーやタオルで体を冷やす



- 部屋の温度を測っている
- 暑い時は無理をしない
- 涼しい服装をしている  
外出時には日傘、帽子



- 部屋の風通しを良くしている
- 緊急時・困った時の連絡先を確認している
- 涼しい場所・施設を利用する

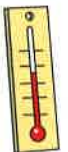


## 予防法メモ

■寝る前だからと水分を我慢せず、こまめな水分補給を心掛けましょう。汗をかいた時は、適度な塩分補給も必要です。



■暑さを感じなくても、部屋の見やすい場所に温度計を置き、温度が上がったらエアコンをつけるなど、常に注意しましょう。



■エアコンや扇風機が苦手な人は、温度設定に気を付けたり、風向きを調節するなど工夫してみましょう。調節の仕方が分からない人は、身近な人に相談しましょう。



## メモ欄